

# 文化と芸術の里づくりを目指して ～養老桜とアートの小径プロジェクト～

想い

軌跡

## 桜さんさん会

### 文化と芸術の里づくり

きっかけは市原市による市民会議だった。市民主導によるまちづくりを計画する中で考えたのが、養老川を桜並木でいっぱいにし、芸術的オブジェを並べる「養老桜とアートの小径(こみち)プロジェクト」である。

### 時空を超えたコミュニケーション

植樹をする際には里親を募集し、1本1本全ての桜に里親の想いをつづった銘板を取り付けた。また、小学生が養老川や桜並木の美しさを詠った詩を紹介する看板を道沿いに設置した。

訪れる人々が銘板や詩を読むことで世代や時空を超えたコミュニケーションが生まれる。

### 信頼できる仲間が増えていった

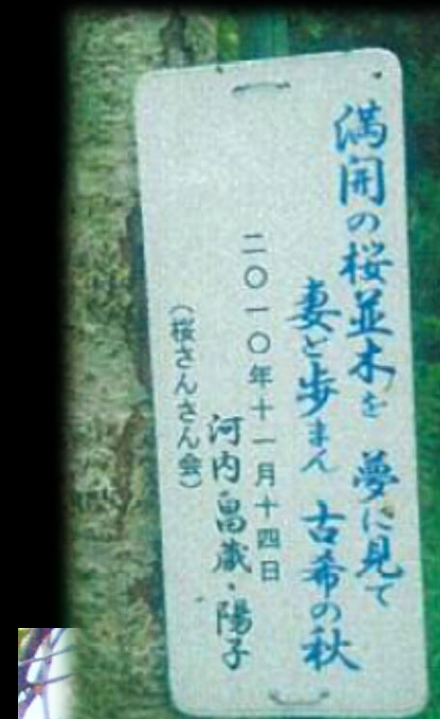
活動を継続していく中で、活動だけでなく私的なことも相談でき、個人的な協力もし合えるような仲間が出来ていった。これは何よりの財産だ。

### 人生総仕上げの活動

スタートして満12年、人生総仕上げの活動として、良い町づくりに共感した多くの仲間とやりがいを感じ活動している。

思い描いた景色が出来るまで、20年、30年かかるプロジェクト。ボランティアとしての活動は少々キツイ面もあるが、地域づくりは世代を繋いで継続することが極めて重要。詩を詠った子供たちや里親の子供たちに繋いで、活動を継続していきたい。

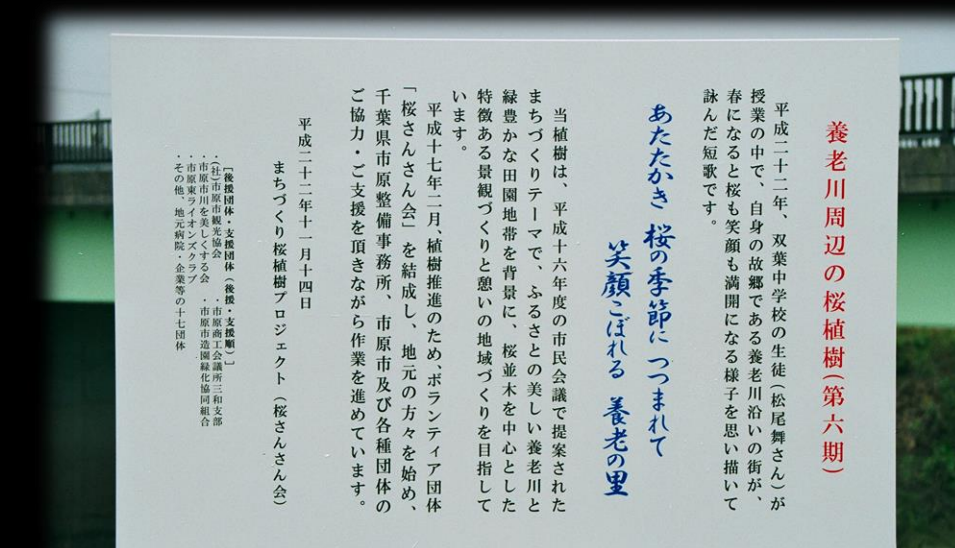
「満開の 桜並木を 夢に見て 妻と歩まん 古希の秋」  
会長の河内氏が桜の銘板につづった詩。  
すべての桜にそれぞれの想いがつづられている。  
時を経ても人の想いは同じで、桜並木の遊歩道沿いで、  
世代や時空を超えたコミュニケーションが行われている。



養老川と桜



「養老の未来をみつめて」  
道沿いには地域に縁のある芸術家が  
製作したオブジェを並べている。



～あたたかき 桜の季節に つつまれて  
笑顔こぼれる養老の里～  
小学生が詠んだ詩の紹介する看板  
この看板は7か所に設置されている。



桜さんさん会の人たち  
毎春、桜を植えた河川沿いで  
お花見会を開催

### 【主な活動実績】

- 平成17年2月 まちづくり桜植樹プロジェクト「桜さんさん会」設立
- 平成24年 約200本の桜の植樹が終了
- 平成25年 芸術的オブジェの設置を開始

〔参考URL〕 <http://www.geocities.jp/sakurasansankai/>